

環境 NEWS (第17回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

以前、ボウガンの矢が刺さったままのオナガガモが上野動物園で保護され、矢を摘出された状態で放たれたニュースに、怒りとともに救出チームのご努力に感動された方は多いのではないのでしょうか。また、ユリカモメの頭部に吹き矢がさされた状態で発見されたこともありましたね。いずれも鳥獣保護法違反の可能性が高い事案です。

それでは海の中での事案はどうなるのでしょうか？

環境省が教材として提供している海洋ゴミに関する資料がありますので、その一部をご紹介しますと思います。

動物の死骸の写真はインパクトがありますが、現実には起こっていることでもあり、目を背ける訳にはいきません。また、意図的では無いにしても、こんなことにならないように、注意しなければなりませんね。

海洋ごみが動物の生活を脅かすことも…

- 世界中から、漁具が絡まった動物の報告があがっている。
- 死んだ海鳥の胃の中からも、**餌と間違っ**て食べた**プラスチック**がたくさん見つかっている。
- 魚の胃の中からも、細かいプラスチックが発見されている。



写真: NOAA (アメリカ海洋大気局)

(右)
太平洋のミッドウェー環礁で見つかった、アホウドリの死骸。胃の中にプラスチック類やライターなどが入っていたことがわかる。



写真: NOAA (アメリカ海洋大気局)



写真提供: 岡山県

どちらの海にするか、私たちは選ぶことができます。
海に流れ出るごみを減らすにはどうしたらよいでしょうか。
きれいな海にするために、自分ができることを考えてみませんか？

環境省平成 29 年度漂着ごみ対策総合検討業務